



研究主題 「学ぶことを楽しむ！」

～文教大学附属小学校型 ディープアクティブラーニング

学びの深化を目指して「自ら問い続ける子どもを育てる授業」～

平成30年10月4日(木)、本年度第4回目の校内研究授業を行った。今年度は研究主題である「学ぶことを楽しむ！～文教大学附属小学校型アクティブラーニング学びの深化を目指して「自ら問い続ける子どもを育てる授業」～について研究を重ねてきている。

第4回目の今回は、算数の研究授業を行った。1年2組は、『たしざん』を谷島かなえ教諭が、5年生は、『三角形の面積』を宮崎貴弘、太田隆平、佐久間裕也教諭がクラスを3つに編成して少人数体制で行った。



1年2組の児童たちは、手元にあるブロックを操作しながら「 $3+9$ 」の計算の仕方を「㊦㊦㊦」を意識しながら考えていく授業だった。「はかせ」とは、「㊦やく・㊦んたんに・㊦いかくに」ということで、教室にも掲示していつでも意識できるようにしていた。子どもたちは、「3」を「1と2」に分けるか、「9」を「7と2」に分けるかで意見が分かれていたが、2つの考えに対して、自分の考えを一生懸命伝えあっていた。

5年生は、既習の長方形、正方形、平行四辺形の面積の求め方を使って三角形の面積をどう求めるのかを考える授業だった。子どもたちはワークシート上の三角形を、切ったり、付け足したりしながら既習の図形になるよう思い思い考えていた。三角形を変形してでき上がった長方形や平行四辺形をみんなの前で説明しながら三角形の面積を求めていた。



どちらの授業も具体物を目の前で操作しながら考えていたので、子どもたちは一人ひとり夢中になって授業に取り組んでいた。



研究協議会では、明星小学校校長 細水保宏先生にご講義をいただいた。先生からは「はかせ」に「どん」を付け加える

ことを教わった。「どん」とは、「どんなときも」である。どんな時でも「はやく、かんたんに、せいかくに」処理していくために算数の授業を組み立ていくことが大切である。

